

授業科目	理学療法評価診断学 1	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		理学	必修

科目担当責任者	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E402 号) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	戸田創		
概要	評価とは、種々の検査・測定を通じ情報収集し、その結果を統合・解釈することで、対象者のもつ障害とその程度を把握する一連の過程をいう。この過程は、理学療法において効果的な治療を実施するうえで極めて重要な位置を占める。本講義では、理学療法評価の目的と意義を理解するとともに、評価過程の 1 つである 種々の検査・測定のうち、形態計測法、関節可動域検査法および徒手筋力検査法に關しての基礎理論と技術を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法における評価の意義と目的を説明できる。</li> <li>2. 形態計測の意義と具体的手法を説明し、基本的検査手技を実施できる。</li> <li>3. 関節可動域検査法の意義と具体的手法を説明し、代表的な関節の基本的検査手技を実施できる。</li> <li>4. 徒手筋力検査法の意義と具体的手法を説明し、代表的な関節の基本的検査手技を実施できる。</li> <li>5. 各検査の結果から左右差や個体差を解釈し、その要因を推察できる。</li> </ol>		
関連科目	運動学 1、理学療法評価診断学 2、臨床実習 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	100%	
教科書	①千住秀明監修 [2016 年] 「理学療法評価法 第 3 版」 神陵文庫 ②Dale Avers 他著(津山直一他訳) [2020 年] 「新・徒手筋力検査法 原著第 10 版」 協同医書		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	演習は、触診や検査手技の実施に適したシャツ、短パン等の露出が可能な服装を準備すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	理学療法評価の目的と意義	事前：理学療法概論の関連内容を復習	講義	谷口
2	形態測定(肢長の計測)	事前：筋骨格の解剖学の復習、事後：検査内容の復習	講義・演習	〃
3	形態測定(周径の計測)	事前：筋骨格の解剖学の復習、事後：検査内容の復習	〃	〃
4	形態測定のまとめ	事前：各形態計測法の総復習	〃	谷口・戸田
5	関節可動域検査の概念①	事前：関節運動学の復習	〃	〃
6	関節可動域検査の概念②	事前：関節運動学の復習	〃	〃
7	股関節の可動域検査①	事前：テキストの関連内容の予習、事後：検査内容の復習	〃	〃
8	股関節の可動域検査②	事前：テキストの関連内容の予習、事後：検査内容の復習	〃	〃

9	膝関節の可動域検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
10	関節可動域検査のまとめ	事前:各可動域検査法の総復習	〃	谷口・戸田
11	徒手筋力検査の概念①	事前:骨格筋の構造・筋力の生理学の復習	〃	〃
12	徒手筋力検査の概念②	事前:骨格筋の構造・筋力の生理学の復習	〃	〃
13	股関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
14	膝関節の筋力検査	事前:テキストの関連内容の予習、事後:検査内容の復習	〃	〃
15	徒手筋力検査のまとめ	事前:各筋力検査法の総復習	〃	谷口・戸田